

学校だより あしたか 7月号

学校教育目標：㊦かよく ㊧しこく ㊨えむきに

令和4年6月30日

重点目標：「いいね！」をのばそう

富士市立吉永第二小学校

吉永第二小学校ホームページ <http://www2.city.fuji.shizuoka.jp/~p-yoshinaga2/>

👍 鯛が泳ぎ回る姿が「いいね！」🐟🐟🐟🐟🐟🐟🐟

例年では梅雨明け前の大雨を心配する頃だと思われそうですが、今週になって「もう梅雨明けですか？」と驚いてしまうような晴天と真夏並みの暑さが続いています。夏休みまで3週間ある中で、猛暑と酷暑に備えながらの毎日となりそうです。

新型コロナウイルス感染症と同時に熱中症を防ぐためにも、マスク着脱のタイミングやその際の留意事項については、引き続き子どもたちへの声掛けをしていきたいと思っております。ただし、不安のためになかなかマスクを外せないお子さんもいることは事実です。強制することはしませんが、できるだけ自らの判断によってマスクの着脱ができるように、保護者の皆様にもご理解ご協力を賜りたく存じます。

さて、6月は大学の先生や富士市教育委員会の先生方に授業を公開する機会がありました。4月の授業参観会で見た子どもたちの緊張した姿とは対照的に、まるで水を得た魚のように生き生きと学ぶ姿を参観していただくことができました。

私たちは、校内研修テーマとして『～たい』が育つ授業』を掲げ、年間を通して授業研究を中心とした研修会を行っています。6月の早い時点で、子どもたちの「調べたい」「考えたい」「伝えたい」「聞きたい」「書きたい」…という内的な欲求があふれる姿を引き出すことができ、上々の滑り出しと言えそうです。

その時の子どもたちの姿は、まさに鯛が元気よく泳ぎ回るような感じに例えられました。その姿は、研究授業だけでなく、日常の授業でもたくさん見られます。

「子どもたちが華麗に泳ぎ回る鯛なら、教師は泥にまみれた鱗（かれい）です。」

某漫画から引用させていただいた台詞ですが、実際の授業でも、授業者の想定を超えた子どもたちの思考に対して、教師の方が困惑してしまうような場面が見られました。その度に私たちは、子どもたちの潜在能力の高さに驚かされ、さらなる成長を願うのみです。

明日（7/1）の授業参観会でも、保護者の皆様にも子どもたちのたくさんの「～たい」を感じていただくことができることを願っています。ただし、もしかしたら保護者の皆様に後ろから見られていることを意識して肩に力が入ってしまい、「静かな鯛」になっているかもしれませんが、その際にはご容赦いただきたく存じます。

 校長 望月 敏行

吉永第二小の歴史を追って

6年生総合的な学習の時間は、学校の歴史から探究が始まり、神戸小の隣にある常願寺での寺子屋時代がその始まりであることがわかりました。よって本校の誕生は、幕末から明治初めに遡り、今日まで150年以上の歴史となります。その頃の常願寺には、一色、神戸、今宮、勢子辻、桑崎、石井、鵜無ヶ淵、間門などの近隣の村から子どもたちが通い、読み書き・算盤を習っていました。その後、明治5（1872）年の学制によって全国に小学校が創立されるようになると、寺子屋から名前が変わった「七邑舎」、桑崎の善光寺に場所を変えた「叢中舎」、今泉小分校としての「脩正舎」、穆清舎（吉永第一小の前身）の「鵜無ヶ淵分校」などの変遷をたどりました。

そして、ようやく明治25（1892）年7月9日、鵜無ヶ淵観音堂境内に校舎が建てられ、「鵜無ヶ淵尋常小学校」として独立したことが、本校の始まりとして考えます。つまり、7月9日は本校の独立記念日（創立記念日）となります。

ちなみに学校沿革誌によりますと、初代校長は佐藤清松先生、そこから130年目を迎える現在の校長である私は、第45代となります。

参考までに第45代天皇は聖武天皇、第45代内閣総理大臣は吉田茂、第45代アメリカ大統領はドナルド・トランプ、第45代横綱は若乃花（初代）で、いずれも記録にも記憶にも残る大人物です。できれば、少しでもあやかりたい思いです…。

